

ミライのフツーに向かって

山村と都市が共存する豊田市で、どんなミライをめざしていくのか。そのミライのフツーをどのように創っていくのか。おいでん・さんそんセンターを運営する（一社）おいでん・さんそんの正会員に想いを語ってもらいます。

うかく よしえ
宇角佳笑さん
第12回

1973年生まれ 自然療法家 ホメオパス ボディワーカー 20歳より自然療法の世界へ。ボディワークやトラウマ療法を通じ身体の知性について日々探究中。趣味は田んぼと登山。



自給自足に憧れて田舎の物件を探し訪ねていた25年前。「よそ者に土地や家を売ってくれる人なんてそうおらんぞ。」と言う言葉であっけなく田舎暮らしへの夢は幕引きとなった。結婚や出産、東京での生活。知らない土地での核家族の子育て。都会のスピード感と子育てに追われる毎日で、いつの間にか田舎暮らしという言葉も心の片隅に静かに置き去りになっていた。

そんな私が今や米作りや畠仕事にせっせと田舎へ通う生活だ。足助と小原の2か所で田んぼを掛け持ちし、足繋く田舎へ通っている。小原のN家に集う仲間で2年前から緩やかに始まったチーム農業の活動は、私の生活の中心になっている程だ。主な活動は米作りで、他に農作業や手仕事、山仕事など、季節ごとに暮らしを紡いでいく過程が楽しくて仕方ない。時々番外編で自然観察や登山にも出かける。去年は真菰栽培にチャレンジし豊作!この冬は竹炭作りにも挑戦する。わくわくすることばかりだ。何より自然の中で農作業をして汗を流すことの気持ち良さ!作業後、N家に響き渡る「ただいまー。」「おかえりー。」を聞くと温かな幸せな気持ちで満たされていく。

12年前の東日本大震災の直後、哲学者内山節氏が「これからは地域を超えた網の目の様な関係性を築いていくこと」と言った。25年前に田舎への移住が叶わなかった私も、今は田舎と街を行ったり来たりしながら、友人らと大家族の様な関係性を築いている。家族や地域という枠組みを超えた関係性は新しい時代の「結」そのものではないかと思う。



農林業や暮らしを軸にした大家族の様な「結」が当たり前の様になる、そんな未来のフツーはすぐそこにまで来ている気がする。

イベント情報

北小田の家presents小さな上映会#3

古民家レンタルスペース北小田の家presents小さな上映会第3回「杜人」を上映します。人間よりも自然に従う風変わりな「医者」。環境再生医、矢野智徳さんの3年間の挑戦を追いかけたドキュメンタリー映画です。豊のお部屋で座布団に座って観る定員30人ののんびりとした上映会です。上映後、映画の内容でもある環境再生を学んだ大山泰介さんをゲストにお話を伺います。

- 日時 | 2023年3月11日(土)
- スケジュール |
13:00 開場 13:30 上映 15:10 休憩 15:15 大山泰介さんのお話(映画の内容と環境再生について。ファシリテーター:荒川偉洋子さん) 16:00 終了

- 参加費 | 2,000円
- 映画の内容

矢野智徳さんに初めて会ったときの衝撃を忘れない。「虫たちは葉っぱを食べて空気の通りをよくしてくれている」、「草は根こそぎ刈るから反発していっそう暴れる」、「大地も人間と同じように呼吸している」。植物や虫、大地、生きとし生けるものの声を代弁するような言葉はナウシカのようだった。風のように枝を払い、穴を掘る様子はイノシシのよう。こんなふうに自然と関わればほど豊かに生きられるだろう。いや、人間であることの罪悪感が少しほとほくなるかもしれない。

それから4年後。技術も知識も経験も機材もない中で、彼を追いかける旅は始まった。何処へ行っても、傷んだ自然とコンクリートがあった。そして、汗だくで草を刈り、泥だらけになって土を掘り、笑顔で帰っていく人々がいた。2018年7月。西日本で大変な災害が起きた。彼が以前から警告していたことが現実となつたのだ。被災現場に駆けつけた矢野さんは言った。「土砂崩れは大地の深呼吸。息を塞がれた自然の最後の抵抗」。かつての人々が大切にした言葉、「杜」とは「この場所を傷めず禄さず大事に使わせてください」と人が森の神に誓つて紐を張つた場。自然と共に生きるすべを、人間という動物の遺伝子はきっとまだ憶えている。この映画がその記憶の小箱を開く鍵となることを切に願う。監督:前田せつ子
●大山泰介さんプロフィール

10年ほど造園会社に勤務、樹木の植栽や維持管理、造園工事などに関わっていくにつれモヤモヤが心に積もる。そんなタイミングで何の気無しにネットで見かけた大地の再生講座に参加。今までのモヤモヤが一気に晴れるような感覚と感性の集団に出会う。それが3年ほど前。現在は稻武地区にて庭師として開業しつつ、空き家の管理業やホップの栽培、不定期での環境再生ワークショップの講師など、求められるがままに活動中。沖縄県出身、愛知県豊田市稻武町在住。

- 申込方法 peatixの該当ページよりお申し込みください→
- 主催・問合 | 北小田の家 メール arakawa.mt@gmail.com



「つながる力でミライを変える」おいでん・さんそんセンターの活動をご紹介!



おいでん・さんそんSHOW

2月号
2023.02.01発行

足助
あすけ

PICK UP

縄文時代から続く集落で守り継いできた民族芸能。人口減少下で、どう未来に繋ぐかが課題

『綾渡の夜念佛と盆踊り』がユネスコ無形文化遺産に登録



夜念佛は三河山間部から岐阜県の恵那市にかけて広く行われていたが、現在では綾渡にだけ残っている

風流踊りがユネスコ無形文化遺産に登録

令和4年11月、香嵐渓から東へ約5キロ、標高500メートルほどの山あいにある豊田市綾渡町で昔から引き継がれてきた「綾渡の夜念佛(よねんぶつ)と盆踊り」が、風流踊りの一つとしてユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の世界無形文化遺産に登録されました。

世界無形文化遺産は、国際条約に基づく文化遺産を守る枠組みの一つで、形のない文化遺産(無形文化遺産)について保護を図ることを目的としています。また、24都府県41件が指定されている「風流踊り」については、文化庁のページに【華やかな、人目を惹く、という「風流」の精神を体現し、衣裳や持ちものに趣向をこらして、歌や笛、太鼓、鉦などに合わせて踊る民俗芸能。除災や死者供養、豊作祈願、雨乞いなど、安寧な暮らしを願う人々の祈りが込められている。祭礼や

年中行事などの機会に地域の人々が世代を超えて参加する。それぞれの地域の歴史と風土を反映し、多彩な姿で今日まで続く風流踊りは、地域の活力の源として大きな役割を果たしている】と説明があります。

今回、「綾渡の夜念佛と盆踊り」とはどんな伝統行事なのか、また今後の展望について取材しました。

平勝寺を中心としたお盆の行事

夜念佛は、新仏(死後初めての盆に迎えられる死者の靈)の家を若連(35歳までの男性)が回り、靈を慰めるために回向(成仏を願って仏事供養すること)を手向け、お施主にもてなしてもらったお礼に手踊り(盆踊り)を踊るお盆の行事でした。昭和35年まではこのスタイルで実施していましたが、若連の対象住民が少なくなってきたために、現在は綾渡町内に住む住民によって構成される保存会が結成され実施主体となっています。



(左)夜念仏の後に平勝寺で行われる盆踊り
(上)豊田市役所足助支所に掲示されている垂れ幕

それ以降、毎年8月10日と15日に綾渡町にある曹洞宗の平勝寺の境内で行われています（令和2～4年は7月の練習のみ実施）。平勝寺には、17年に一度ご開帳される像高170センチの木造観音菩薩像があり、檀家を含めて村中の人たちで大切に祀っているそうです。ご開帳の際に納められるお布施は、代々村のために使われていて、「綾渡の夜念佛と盆踊り」にも充てられているため、これまで保存会費として会員から徴収したことがないとのこと。集落にとって、お寺がいかに中心的な機能を果たしているかが窺えるエピソードです。

夜念佛の日、午後7時ごろから、菅笠をかぶった男性たちが鉦の音に合わせ念佛を唱和しながら参道を進みます。参道を行き来する人たちの無事を祈るために、道筋に立っているお地蔵様への回向をしながら、山門に上がります。そこで、「門開き」を唱え、和尚に迎えられると、観音堂の前、氏神神明宮前、最後に平勝寺本堂前で回向を唱えて終わります。

約1時間の夜念佛が終わると、住民たちが輪になって盆踊りを始めます。特徴的なのが、太鼓や三味線など一切使わず、「音頭取り」と呼ばれる唄い手の唄に合わせて下駄の足拍子だけで踊ること。現在では6つの手踊りと4つの扇子踊りの10曲が残っているそうです。「越後甚句や、御嶽踊りなど、昔の綾渡の人が山岳信仰として越後や木曽を訪ねた際に覚えて持ち帰ってきたと思われます。今や発祥の地でも残っていない唄や踊りが、綾渡で続いている。街

道を外れた山の上の集落だからこそ、昔からの伝統が残り続けたのではないかと思う」と、綾渡夜念佛と盆踊り保存会会員の寄田錦さんは話します。

住民だけで維持していくのは難しい

毎年7月になると、毎週土曜日に綾渡町の小学生から大人までが集い、練習を重ねています。しかし、集落の人口は、26世帯73人（2023.1.1現在）と減少傾向。今回「ユネスコ無形文化遺産」に登録されたことについて喜びと同時に、今後の継続について不安があるといいます。住民の一人は、「これまでにも、夜念佛の良い写真を撮りたい観光客どうしの言い合いや田んぼへの無断の立ち入りなど対処が難しい状況がありました。見物客のためではなく、住民の暮らしのための夜念佛や盆踊りだと思うのですが、その線引きをどのようにしたら良いのか、答えが出ていません。そのうえ、今年からはこれまで以上に注目されると予想され、もう住民だけではどうしようもできないというのが実感です」と漏らしています。

これからも、夜念佛と盆踊りが綾渡の住民たちが心を寄せる場であり続けるためには、行政を始め関係各所のサポートが必要となります。また、人口減少・高齢化の局面で、住民だけで担っていくには限界があるため、集落が綾渡の継続を願う個人・団体と繋がって、一緒に活動をしていくことが一層重要になってくるのではないかと感じました。おいでん・さんそんセンターも、関係人口増加のために尽力したいと思います。（木浦幸加）



report → 野外健康運動指導士の青木宏和さんを講師にした藤岡交流館の令和4年度講座

健康増進と観光を融合。ノルディックウォーキングツアー開催

暖かい気候に恵まれた成人の日の1月9日（月）、藤岡地区で、2本のポールを使って歩行運動を補助し、運動効果をより増強するフィットネスエクササイズの一環であるノルディックウォーキングのイベントツアー『ツール・ド・フジオカウォーキング』が開催されました。

このツアーは藤岡交流館の令和4年度講座で、今年度は全5回の開催予定です。ツアーは、愛知県の起業サポート事業「三河の山里なりわい実践者（現：あいちの山里アントレワーク実践者）」に令和3年度参加し、野外健康運動指導士として活躍中のSOTODE主宰・青木宏和さんを講師に地域を巡りながら、健康増進も図ることを目的に実施されています。1月に開催された第4回目は「森林浴と足湯の癒しコース」ということで藤岡地区の石畠、白川地域の3.5キロを巡りました。

ツアーの始めに、講師の青木さんから準備体操とノルディックウォーキングのレクチャーを受けます。わかりやすく、丁寧なレクチャーで初心者の人にも安心して参加することができます。ポールを補助として使用することで、身体全体が伸びあがるようになり、普段使わない筋肉を使用することが体感できるのがとても印象的でした。

ツアーが始まると、コースをノルディックウォーキングしながら、青木さんに歩き方などをチェックしてもらいます。初めはぎこちない動きの筆者も歩いているうちにだんだん

と要領がつかめるようになってきました。ツアーでは2か所のスポットへ立ち寄りました。1か所目は、藤岡へ移住して自宅の庭を「さやの庭」という名で整備する柴垣さん宅。春には多くの花が咲き誇るガーデニングの取組についてお話を聞きました。2か所目の蔵圓寺ではお寺のいわれを聞きながら地域の方との温かい交流もありました。こんな交流もツアーの魅力のひとつです。その後も暖かい日差しの中、見通しの良い石畠地域の景色をウォーキングしながら堪能しているとあっという間にスタート地点の石畠ふれあい広場に戻っていました。

参加したみなさんは「藤岡地区の住民でありながら、新しい発見があってとても楽しかった。柴垣さんのオープンガーデンは春の良い時期になったらぜひ訪れてみたい」、「始めはノルディックウォーキングに慣れなかったけど、先生が丁寧に教えてくれて楽しいウォーキングだった」と、とても満足な様子でした。

講師の青木さんは「健康と観光を融合した楽しい場を、今後もたくさん作っていきたい」と笑顔で話していました。
(川端光平)

